

諏訪 はくつる会には、市内の工業団地の優良企業に体験入社をさせてもらい作業の様子を見てもらうことで、就職につながった利用者がいたり、母親を車に乗せてあげたい一心で知的障がい乗り越えて運転免許証を取得した利用者がある。

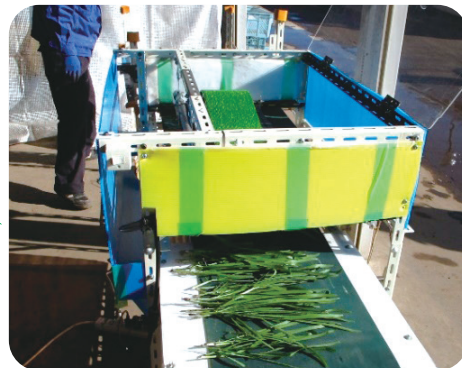
「ふくしまあじさい会」という東日本大震災の被災者とお付き合いがありますが、彼らはいつまでも被災者扱いされることは望んでいません。もともと持っている能力で前へ踏み出していく姿が見られる。自然だなと思う。障がい者の雇用についても、ある部分だけ集中して仕事ができる人ならたくさん仕事がある、とロケット部品をつくる企業から言われたことがある。また、障がい者の作業は、採算をとらなければだめと言われている試行している。



計量するための前処理を機械化したおかげで、生産性が今までの2倍になったんだ。



市の補助事業を活用して、野菜を洗浄乾燥するための機械を小山工業高等専門学校と生産農家が共同開発したんだよ。



今年度表彰された企業から受注した箱折作業もやっているんだ。集中してしっかりと折っているね。



諏訪 小山高専と連携して土等を洗浄する機械を開発してもらって整頓結束の作業を請け負っている。他にカブの販売、干し大根をスーパー等へ納入して事業化を進めている。

山口 企業への就職は受け入れられたんですか。

諏訪 腫物にさわる感じ、企業側も経験がないが受け入れてくれた。

山口 障がいだけを知ってもらうのではなく、その人の個人を知っていただくのが大事だと思う。

諏訪 障がいについての考え方は変わってきていて、今は外に出そうという風潮になってきた。就職を希望している人は多いが、それに比べられるだけの受け入れ企業が少ないのが現状。本人や家族の希望を満たすのは困難です。



つながッテルね!
条例34条

(人材及び組織の育成)

市民、議会及び市は、市民が主役のまちづくりを推進するため、自発的なまちづくりの担い手及び自律的なまちづくり組織が育つよう支援を行い、その学習環境及び拠点の整備に努めるものとする。